

1

【感謝と喜びを】

F B♭ C7 F Gm C7 F
 感謝と 喜びを 今 主の前に 今 主の前に
 B♭C7 F Gm C7 F
 賛美を 心から 今 主の前に ささげよう

Am Gm C7 Dm B♭ C7
 イエスが 流された 血潮で きよめられ
 Am Gm C7 F C7 F
 天に 私の名が 記されている喜び

聖霊の主よ

F Gm D Gm F C F
 聖霊の主よ いまここに
 F C7 F B♭ Gm F C7 F
 臨んでください 新しく
 B♭ F G7 C7
 砕き とかし 造り 満たし
 F Gm D Gm F C F
 聖霊の主よ いまここに

F Gm D Gm F C F
 聖霊の主よ いまわれに
 F C7 F B♭ Gm F C7 F
 臨んでください 新しく
 B♭ F G7 C7
 きよめ 助け 強め 燃やし
 F Gm D Gm F C F
 聖霊の主よ いまわれに

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り

イエス様の十字架で流された血潮と愛に感謝します。

2. 悔い改めと主を慕い求める祈り

自分の弱さを認め、主にゆだねましょう。

3. 個人的な願いの祈り

ここにある願いを何でも祈ります。

また、イエス様の約束された「聖霊様の満たし」を求めてお祈りしましょう。

4. とりなしの祈り

コロナの完全終息のためにお祈りください。

いよいよ5月31日に始まる礼拝のため

- (1) 瀬戸カルバリーチャペルの礼拝のため
 - ・地域の方々に主の平安が届けられますように
 - ・牧師家族のため・ジョイキッズ・次世代のため
- (2) 家族・親族・友人知人・ご近所の方のために
- (3) 病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため
- (4) 日本のリバイバル・大和カルバリーチャペルのため

欠点だらけの人間が私たちです。しかし、神様はそんなことは百も承知なのです。承知の上で、そのような失敗や欠点をばねにして私たちが天に向かうことを望んでおられるのです。失敗の多い人生が、人間を祈りに押し出すのを神様はご存知なのです。

「祈りから生まれるもの」より・佐藤彰 牧師

瀬戸カルバリーチャペル

×Seto LIFE ART Studio

愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899

牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

使徒行伝1章8・12～14節

1:8 「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

1:12 それから彼らは、オリブという山を下ってエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に許されている距離のところにある。

1:13 彼らは、市内に行き、その泊まっていた屋上の間にあがった。その人たちは、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党のシモンとヤコブの子ユダとであった。

1:14 彼らはみな、婦人たち、特にイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちと共に、心を合わせて、ひたすら祈をしていた。

使徒行伝2章1～4節

2:1 五旬節(ペンテコステ)の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、

2:2 突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱい響きわたった。

2:3 また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

3

黙想とところの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

Q. 天に戻る直前にイエス様が語られた約束と、その力は、どのようなものでしょうか。

(1章8節を深く黙想しましょう)

Q. 心を合わせて、ひたすら祈った経験がありますか。

(あればそれを分かち合ってください)

そのような集まり、友、教会の仲間がいますか。

Q. 舌のようなもの…、炎のように分かれて…

これは聖霊様がどのような御方であることを象徴していると思いますか？

それはあなたに(どのように)必要ですか？

4

みことばの解説

次の日曜日(20200531)はペンテコステ礼拝。ご復活から40日間、イエス様は度々弟子たちに現れて、神の国についてお話しされました。そして大切な最後のお約束(使徒行伝1章8節)を残し、オリブ山で天に昇ってゆかれました。オリブ山はイエス様が足しげく通われた祈りの場所であり、エルサレムの街中からケデロンの谷を通ってゆくその道は、弟子たちにとって『祈りの小径』であったことは間違いありません。

そんな弟子たちが集まっていた「屋上の間(Upper Room)」は、最後の晩餐をした場所と同じであるとも言われます。イエス様はそのところで、弟子たちの足を洗い、『私がこうしたように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』と語られて、翌日十字架に架けられた、忘れられない屋上の間。弟子たちは、年齢・性別・身分などの枠を超え、ただイエス様を愛し、その道に従いたいという一つの理由で、ひたすら祈りを捧げました。

今日使徒行伝1章を心に留め、私たちも以下の祈りを捧げます。

(1) **イエス様の生涯(十字架への道)を仰ぎましょう。**

…主がなされた御業を忘れないで感謝する！

(2) **こころを合わせて祈ります。**

…誰かと祈りの課題を分かち合い、牧師にもご連絡くださったら心を込めて祈ります。もちろん一人でも大丈夫です。

(3) **ひたすら祈りましょう！**

…熱心に、時間をかけ、日常を離れ、戸を閉じて祈りましょう。自分の思いを委ねられるまで、御心が明確にされるまで、約束のことばを握りしめて祈りましょう。

彼らが祈り始めて10日後、復活から50日目、使徒行伝2章に描かれているペンテコステ(五旬節)の奇跡が起こり、「初代教会」が始まり、「リバイバル」が始まり、「世界宣教」が始まりました。(1)(2)(3)の法則はこんにちも有効です。そして、ひたすら祈る時に、あなたにも「何かが始まる」こと間違いありません！ Let's Pray Together and see His Glory !!